

小林市教育研究センター

I	研究主題と副題	7-1
II	主題設定の理由	7-1
III	研究目標	7-1
IV	研究仮説	7-1
V	研究の全体構想	7-2
VI	研究内容	7-3
1	研究の基本的な考え方	
(1)	教職員の実態・意識調査の分析	
(2)	本研究センターが目指す授業（小林市ならではの授業）と確かな学力	
2	系統的な指導	7-4
(1)	T S Mの活用場面や活用方法	
(2)	T S Mの改善と拡充	
3	活用型授業づくり研究	7-5
(1)	単元構成の基本型づくり	
(2)	知識や技能を活用する言語活動の位置付け方	
(3)	B問題分析を生かした学習問題及び課題設定の工夫	
4	検証授業の実際	7-6
(1)	検証授業の視点	
(2)	検証授業 I (中学校第2学年数学科 単元名「図形の調べ方」)	
(3)	検証授業 II (小学校第6学年社会科 単元名「新しい日本、平和な日本へ」)	7-7
5	研究内容の普及促進に向けた取組	7-9
(1)	教職員の実態・意識調査分析	
(2)	既存の取組活用	
(3)	研究センター通信の効果的な配信と活用	
VII	成果と課題	7-10
1	成果	
2	課題	

【引用・参考文献】

【研究同人】

I 研究主題と副題

確かな学力を育成するための小林市ならではの授業の創造

小中一貫教育における系統的な指導の充実と知識・技能を活用する授業づくりの実践化を通して

II 主題設定の理由

平成20年3月に告示された新学習指導要領が、小・中学校で全面実施となり2年目を迎えた。その基本理念として児童生徒の「生きる力」をよりいっそう育むことを目指し、知識や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力などの育成を重視することが示されている。

本市においては、自ら目標をもち、未来をたくましく生きぬく児童生徒を育成することを目指し、「知」・「徳」・「体」・「食」のバランスのとれた教育活動を推進し、平成21年度からは連携型の小中一貫教育を全小・中学校で実施してきた。これまで、研究指定校を核とした指導方法・指導体制及び環境整備等の工夫改善や、教育フォーラム等による市内全教職員参加型の研修により、「徳・体・食」育に関しては一定の成果を見ることができた。また、「知」育に関しても様々な研修環境が整い、「目指せ宮崎県一、小林の学力」をスローガンの一つに掲げ、市内教職員一丸となって日々の実践に取り組んでいる。

しかし、ここ数年の各種学力調査の結果からは緩やかな上昇傾向が見られるものの、県の学力調査では県平均を下回る教科があり、全国学力・学習状況調査では、主として「活用」に関する問題（B問題）において全国平均をやや下回る傾向が続いている。その要因として、9年間を見通した系統的な指導が意識されず、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る指導やそれらを活用させる学習活動が十分に行われてこなかったり、各種の研修の成果を生かした授業レベルでの実践が、継続的に行われていなかったりしたことが考えられる。

そこで、本研究センターでは、これらの経緯をふまえて市の教育上の課題を解決するために、昨年より学力向上に焦点を絞って研究を進めることとした。まず、「系統的指導研究班」において9年間を見通した系統性・一貫性のある学習指導に役立たせるための資料等を作成した。また、「活用型授業づくり研究班」において問題解決的な学習指導過程を基軸とし、知識・技能を活用する学習活動を充実させた小林市ならではの基本的な授業スタイルを提案することができた。さらに本年度は、昨年までの研究をさらに充実、発展させるとともに、研究内容を普及、浸透させるために新たに「授業改善普及班」を設け、小林市内の全小・中学校教職員の授業力向上と児童生徒の学力向上に向けて、理論的かつ実践的な研究に取り組んでいくことにした。

これら3つの班の取組を充実させ、組織的・体系的に研究を進めていくことで、児童生徒の確かな学力を育成する小林市ならではの授業が創造でき、本市の掲げる「夢と元気と勇気ある小林教育」の具現化を目指すことができるのではないかと考え、本主題を設定した。

III 研究目標

児童生徒の確かな学力の育成を目指して、小林市の児童生徒の学力の現状をとらえ、基礎的・基本的な知識及び技能を活用する学習活動を中核とした小林市ならではの授業を創造する。

IV 研究仮説

小中一貫教育のよさを生かしながら次のような研究をすることで、小林市ならではの授業の創造ができ、児童生徒の確かな学力を向上させることができるであろう。

- (1) TSM[※]の有効活用に向けた実践検証と内容の改善及び普及に向けた取組
- (2) 活用型授業を効果的に行うための単元構成及び言語活動の位置付け方、課題設定の工夫
- (3) 教職員の実態・意識調査等の実施・分析及び研究内容の市内全教職員への戦略的な普及促進

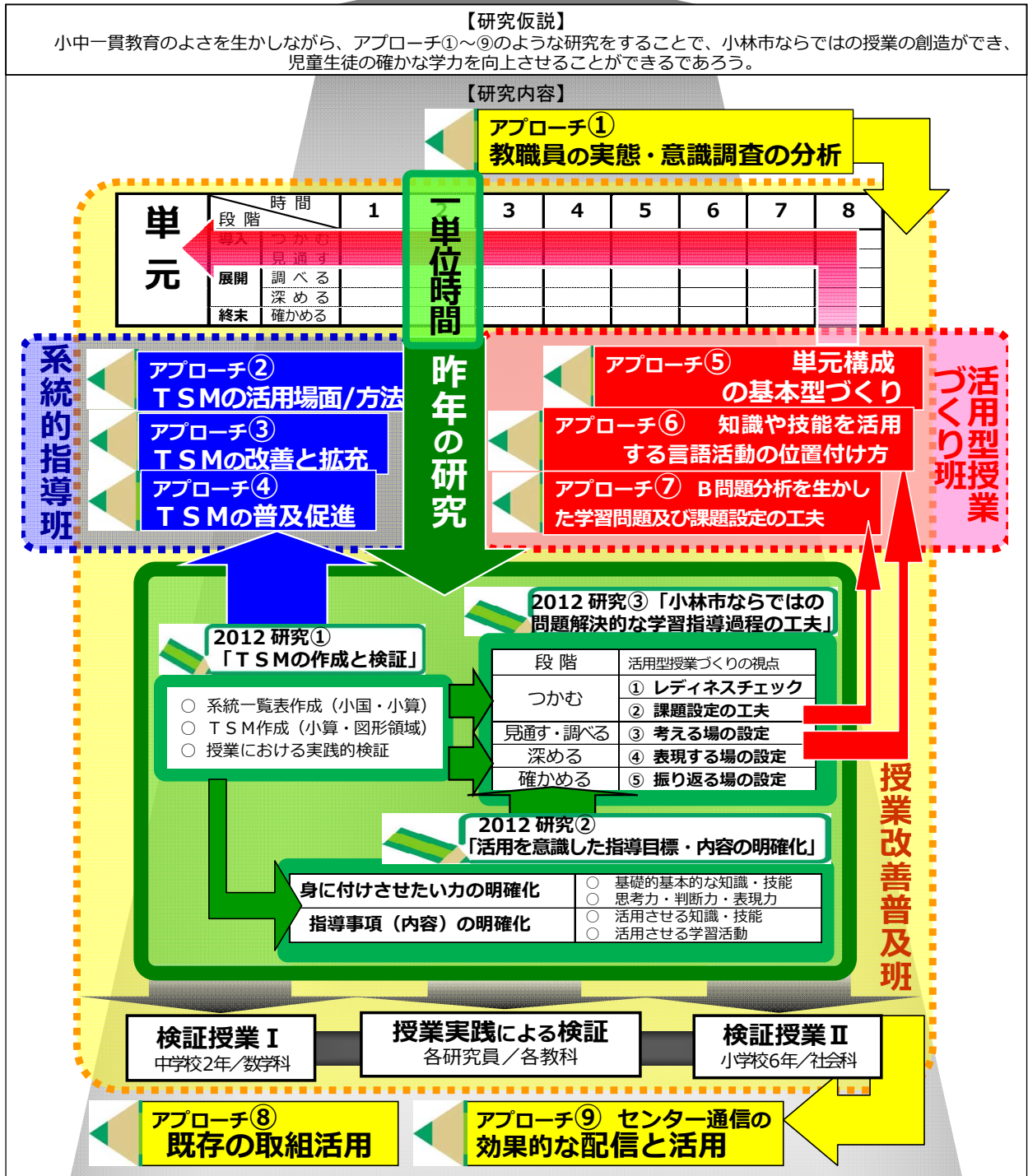
※ TSMとは、昨年度、本研究センターが独自に開発した資料(Teachers' Skill Up Method)の頭文字をとったもの。基礎的な知識や技能を確実に習得させるための授業における手立てのひとつで、当該単元に関わる9年間の内容の系統等が分かるようにした。

V 研究の全体構想

【研究主題・副題】

確かな学力を育成するための小林市ならではの授業の創造

小中一貫教育における系統的な指導の充実と知識・技能を活用する授業づくりの実践化を通して



【小林市の児童生徒の実態から】

- ・平成 21 年度から小中一貫教育の推進等により徳、体、食は一定の成果
- ・みやざき学力・意識調査では県平均を下回る教科あり
- ・全国学力・学習状況調査の「活用」に関する問題（B問題）に課題

【社会的な背景から】

- ・知識基盤社会化やグローバル化
- ・「生きる力」を育む重要性
- ・国内外の学力調査による思考力・判断力・表現力等の課題

【宮崎県の教育から】

- ・確かな学力を育む教育の推進（第二次宮崎県教育振興基本計画）

【新学習指導要領から】

- ・知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成
- ・知識・技能の活用を図る学習活動と言語活動の充実

VI 研究内容

1 研究の基本的な考え方

(1) 教職員の実態・意識調査の分析（アプローチ①）

児童生徒の確かな学力を育成するための授業を構想するにあたり、まず、授業の実践者である市内全小・中学校教職員の実態・意識調査（42項目）を実施した。そして、調査結果を分析することで研究の目的と教職員のニーズをリンクさせた研究内容の精選と焦点化を図った。

Q3) 新学習指導要領で示されている思考力・判断力・表現力等を育むための「知識及び技能の活用を図る学習活動」や「言語活動」についてAとBのうち、どちらが近いですか？	
小学校 <input type="checkbox"/> A (授業内容や指導方法がイメージできる) 22% <input checked="" type="checkbox"/> B (具体的にイメージできない) 78%	中学校 <input type="checkbox"/> A (授業内容や指導方法がイメージできる) 24% <input checked="" type="checkbox"/> B (具体的にイメージできない) 76%
Q5) 日々の授業において、Q3のような授業が実際にできていると思いますか？	
小学校 	中学校
Q6) それはなぜですか？ 困っている点もありましたらお書きください（自由記述）※抜粋	
小学校 ① 児童の知識・技能が未熟で活用まで至らない。 ② 知識・技能を活用することよりも習得に時間がかかる。 ③ 前学年までの内容の確認や定着に時間がかかる。 ④ 教材研究が不十分で教科書の内容をおさえることに重点を置き、教授型の授業になってしまっている。 ⑤ どういった指導で身に付くのか明確に分からない。	中学校 ⑥ 知識・技能を活用する前の知識・技能の習得で終わる。 ⑦ 活用させたい知識（既習）が定着していない。 ⑧ 言語活動をさせるだけの時間的な余裕がない。 ⑨ 習得のみの時間（教師主導型の授業）もあるから。 ⑩ 教えなければならない知識量が多い。 ⑪ 3年生は私立入試があり、進度に追われてできないため。
分析（一部抜粋）	研究の方向性
Q3とQ5の関連 →授業の内容や方法など具体的なイメージがあっても実践がともなわない。	○ 知識・技能を活用する言語活動を中核とした授業づくりの構築
Q6②⑥⑨等 →「習得」から「活用」へと学習活動を分けて捉え、授業をしている。	○ 知識・技能の定着や思考力等を育むための指導方法の究明
Q6①③⑦⑩⑪等 →既習事項が定着していないこと等の理由で教授型の授業をしている。	○ 「習得」や「活用」という学習活動を相互に関連付けながら確かな学力を高める単元構成や一単位時間の学習指導過程の構築
Q6④⑤等 →具体的かつ効果的な指導方法が分からず困っている。	○ 基礎的・基本的な知識・技能や既習事項の確実な定着を図り、それを活用する手だての究明
	○ 授業の改善方法など、研究内容を市内の教職員に普及、浸透させ、実践に結び付くような方策や体制づくり

(2) 本研究センターが目指す授業（小林市ならでの授業）と確かな学力

本研究センターが目指す授業は、系統的な指導を充実させ、問題解決的な学習の中で習得した知識・技能を活用する言語活動の充実を図るものである。このような授業を行うことにより、思考力・判断力・表現力が育まれる中で新たな知識・技能が習得され、その知識・技能は、次時、あるいは次単元や他教科において意欲的かつ主体的に活用され、確かな学力が育まれると考える。

